

【TOKYO PACK 2021 セミナー報告】

◆ 2月25日に当会にてセミナーを開催しました。

TOKYO PACK 2021

<https://www.tokyo-pack.jp/seminar/seminar05.php>

2021年2月24日(木)～26日(金) 10:00～17:00 | 東京ビッグサイト 西1～4ホール 南1～2ホール



未来を拓くTOKYO PACK セミナー

無料

より良い未来の実現に貢献する包装の最新技術を全13セッションでご紹介。

国立環境研究所 × 滝沢秀一 × 日本包装専士会プレゼンツ 持続可能な社会に向けて容器包装プラスチックごみのリサイクルを考える

日本包装専士会はTOKYO PACK 2018に「2030年包装の未来予測」を発表し、その後もSDGsに対応する容器包装のあるべき姿を継続して探求。今回、前半に国立環境研究所で都市ごみ研究の最前線に行く稲葉氏と、芸人でありごみ清掃員として自治体ごみ回収現場の最前線で身体を張る滝沢氏のセミナーを展開。稲葉氏は資源循環型社会の実現に向けて3Rを推進する技術・社会システム構築の研究から、未来に望ましいプラスチック容器包装のマテリアルフローを提示。環境へのインパクトを含めた具体的なシナリオをアカデミックに解説する。滝沢氏は生活者がごみ排出のモラルを守ること、容器包装設計者がごみ減量・易リサイクルに繋がる技術開発を推進することなど、大事な事柄を切れ味鋭い笑いネタに変換しながら、洒落を交えて小気味よく伝える。後半は当会とともに、可燃ごみに捨てられるプラスチック資源ごみの、より良い回収方法や再資源化についてのトークを展開。資源循環社会へ向かう容器包装の望ましい形、より良い資源回収のあり方を議論する。

開催日 2月25日(木)

時間 10:30～12:00

開催場所 西2ホール 特設ステージ



講師：稲葉 陸太 氏

国立研究開発法人 国立環境研究所 | 資源循環・廃棄物研究センター 循環型社会システム研究室



講師：マシンガンズ 滝沢 秀一 氏

環境省「サステナビリティ広報大使」・お笑い芸人・ごみ研究家



講師：橋本 香奈 氏 (大和製罐株式会社)

日本包装専士会 未来包装研究委員会



講師：北島 誠之 氏 (出光ユニテック株式会社)

日本包装専士会 未来包装研究委員会

◆ 日報ビジネス株式会社発行「包装タイムス」紙に、3回にわたりセミナーの取材記事を掲載いただきました。

包装サロン 2021

包装技術のプロフェッショナル軍団である日本包装専士会(島田道雄会長)は2016年、有志を募り未来包装研究委員会を発足。各分野の専門家や有識者と情報交換を行い、SDGsに資する容器包装の在り方を探求している。TOKYO PACK 2018では「2030年包装の未来予測」を発表。それ以降も、各種イベントを通じて、包装業界が進むべき方向を示している。先般のTOKYO PACK 2021では、プラスチック資源一括回収とリサイクルを切り口に講演とトークショーを企画。本紙では、全3回にわたってその内容を紹介する。

◇ ◇ ◇

1人目の登壇者は、国立環境研究所で資源循環や廃棄物の研究を専門とする稲葉陸太博士。過去の研究データを示しながら、一般廃棄物(一廃)と産業廃棄物(産廃)、それぞれに含まれるプラスチックの現状を解説した。

「燃却発電より製鉄プロセスでのリサイクルの方がCO₂排出量は少なく、エネルギー効率が高い。だが現状のリサイクル対策では限界がある。早急に見直す必要がある」と力を込めた。

稲葉氏は、19年より日本包装専士会と情報交換を行い、研究活動に取り組んでいる。その成果として、易解体容器が総合的にエネルギー量削減につながるかどうかの検証を始めたことを発表。「理想の実現に向け、相当な革新が必要。異業種交流を進め、容器包装プラスチックが生物素材化、リユース、リサイクル、そして生物による炭素循環などを通じて適切に循環利用される仕組みを構築すべき」と呼び掛けた。

異業種交流で理想を実現
一廃と産廃のプラ回収を解説

日本包装専士会



記事中オリジナル写真掲載

国立研究開発法人 国立環境研究所
資源循環・廃棄物研究センター
循環型社会システム研究室 主任研究員
博士(工学) 稲葉陸太氏

写真ご提供 日報ビジネス株式会社
「包装タイムス」



中

連載2回目となる
今号では、2人目の
登場者で、ごみ清掃
員やごみ研究家、環
境省「サステナビリ
ティ広報大使」など
マルチに活躍するお
笑い芸人、滝沢秀一
氏の講演内容を紹
介。講演では、「ごみ
集積所の様子を写真
で提示しながら、常
日頃、滝沢氏が感じ
る容器包装、ラステ
ックの分別の複雑さ
をテンポの良い語り
口で解説した。

ごみ清掃芸人滝沢氏が登壇

複雑な分別ルールを解説

日本包装
専士会



講演する滝沢氏

「外装の袋は容器包
装だが、本体は別。
このルールが消費者
には分かりづらい」
と説明した。
一方、現在政府が
進める「家庭系プラ
スチックごみの一括
回収」について、「分
別ルールがシンプル
になるとはいえ、清
掃員やリサイクルラ
ーへの作業負担は増
加。レトルトパウチ
など複合材料が及ぼ
すリサイクルへの影
響も心配」と慎重な
姿勢を示した。
最後に、「Res
pect（リスペク
ト）を合めた
「4R」の啓
発を提唱。プ
ラごみに限ら
ず、創造性を
持つてごみの
分別に取り組
もうと訴え

ンブランドの衣類が
捨てられる傾向にあ
る。お金を出してご
みを買っているとい
言っても過言では
ない」と力を込め
た。
次にプラスチック
製品の分別回収につ
いて、「恐ろしくど
んな消費者が正確
な分別ルールを理
解できていないとし
、ストローを事例に
「外装の袋は容器包
装だが、本体は別。
このルールが消費者
には分かりづらい」
と説明した。
一方、現在政府が
進める「家庭系プラ
スチックごみの一括
回収」について、「分
別ルールがシンプル
になるとはいえ、清
掃員やリサイクルラ
ーへの作業負担は増
加。レトルトパウチ
など複合材料が及ぼ
すリサイクルへの影
響も心配」と慎重な
姿勢を示した。
最後に、「Res
pect（リスペク
ト）を合めた
「4R」の啓
発を提唱。プ
ラごみに限ら
ず、創造性を
持つてごみの
分別に取り組
もうと訴え

2021年3月22日号

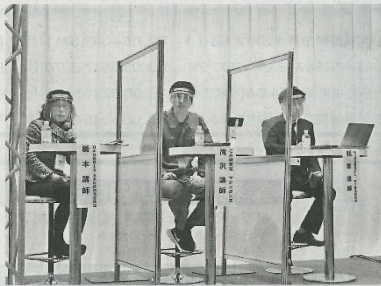


記事中オリジナル写真掲載

ごみ清掃員、ごみ研究家
環境省「サステナビリティ広報大使」
お笑い芸人 マシンガンズ 滝沢秀一氏



下



パネリスト（左から橋本氏、滝沢氏、稲葉氏）

「ごみ清掃員、ごみ研究家、環境省「サステナビリティ広報大使」などマルチに活躍するお笑い芸人、滝沢秀一氏の講演内容を紹介。講演では、「ごみ集積所の様子を写真で提示しながら、常日頃、滝沢氏が感じる容器包装、ラステックの分別の複雑さをテンポの良い語り口で解説した。」と述べた。
続いて、地域によつて変わるごみの現状を紹介。高級住宅街の場合、そもそもごみが少ないとする一方、「一般住宅街ではごみの量が多く、1000円ショップで購入したであろう雑貨類をはじめ、ファストファッションブランドの衣類が捨てられる傾向にある。お金を出してごみを買っていると言っても過言ではない」と力を込めた。
次にプラスチック製品の分別回収について、「恐ろしくどんな消費者が正確な分別ルールを理解できていないとし、ストローを事例に「外装の袋は容器包装だが、本体は別。このルールが消費者には分かりづらい」と説明した。一方、現在政府が進める「家庭系プラスチックごみの一括回収」について、「分別ルールがシンプルになるとはいえ、清掃員やリサイクルラーへの作業負担は増加。レトルトパウチなど複合材料が及ぼすリサイクルへの影響も心配」と慎重な姿勢を示した。最後に、「Respect（リスペクト）を合めた「4R」の啓発を提唱。プラごみに限らず、創造性を持つてごみの分別に取り組もうと訴えた。

「ごみ清掃員、ごみ研究家、環境省「サステナビリティ広報大使」などマルチに活躍するお笑い芸人、滝沢秀一氏の講演内容を紹介。講演では、「ごみ集積所の様子を写真で提示しながら、常日頃、滝沢氏が感じる容器包装、ラステックの分別の複雑さをテンポの良い語り口で解説した。」と述べた。
続いて、地域によつて変わるごみの現状を紹介。高級住宅街の場合、そもそもごみが少ないとする一方、「一般住宅街ではごみの量が多く、1000円ショップで購入したであろう雑貨類をはじめ、ファストファッションブランドの衣類が捨てられる傾向にある。お金を出してごみを買っていると言っても過言ではない」と力を込めた。
次にプラスチック製品の分別回収について、「恐ろしくどんな消費者が正確な分別ルールを理解できていないとし、ストローを事例に「外装の袋は容器包装だが、本体は別。このルールが消費者には分かりづらい」と説明した。一方、現在政府が進める「家庭系プラスチックごみの一括回収」について、「分別ルールがシンプルになるとはいえ、清掃員やリサイクルラーへの作業負担は増加。レトルトパウチなど複合材料が及ぼすリサイクルへの影響も心配」と慎重な姿勢を示した。最後に、「Respect（リスペクト）を合めた「4R」の啓発を提唱。プラごみに限らず、創造性を持つてごみの分別に取り組もうと訴えた。

プラごみ一括回収を議論

専門家3人によるパネルトーク

日本包装
専士会

えで、「将来的には自動選別の仕組みも構築すべき」とし

「将来的には自動選別の仕組みも構築すべき」とし

「将来的には自動選別の仕組みも構築すべき」とし

「将来的には自動選別の仕組みも構築すべき」とし



記事中オリジナル写真掲載

パネルトークの様子
(左から橋本、滝沢氏、稲葉氏、司会 北島)



(左から橋本、北島)

3枚写真ご提供 日報ビジネス株式会社「包装タイムス」

2021年3月29日号